

【参考資料】

1 川島良彰氏プロフィール



株式会社Mi Cafeto(ミ・カフェート) 代表取締役 川島 良彰 (Yoshiaki Kawashima)

- 『日本サステイナブル コーヒー協会』理事長
- 『株式会社コーヒーハンターズ』代表取締役
- 『日本貿易振興機構(JETRO)』コーヒーアドバイザー
- 『東京大学池本教授研究会コーヒーサロン』副座長

川島氏は、1975年、当時世界トップクラスにあったエル・サルバドルのコーヒー研究所で学んで以来、30年以上にわたって世界各地でコーヒー農園の開発と研究を行い、コーヒー栽培の研究から農園開発、製造までの全ての工程を熟知している稀有な人物として世界的に知られています。

2007年には、産地と消費地を結ぶ懸け橋を目指し、株式会社コーヒーハンターズを設立。日々コーヒーの探求を続けています。

【略歴】

- 1956年 静岡県静岡市に珈琲焙煎卸業の長男として誕生。
- 1975年 静岡聖光学院高等部卒業。
中南米のエル・サルバドル国ホセ シメオン カニヤス大学に留学。
エル サルバドル 国立コーヒー研究所入所。内戦勃発後も同国に残りコーヒーの勉強を続ける。
- 1981年 UCC上島珈琲株式会社 入社。
ジャマイカに転勤し、取締役生産マネジャーとして、UCC Blue Mountain Coffee Company の設立に携わる。1985年同社代表取締役に就任。
- 1989年 ハワイに転勤。
副社長兼現地代表としてUeshima Coffee(UCC Hawaii)Corp.に携わる。
ハワイ島北コナ地区でコナコーヒー農園の開発・管理・買い付けおよび他生産国の調査を担当。
- 1992年 開発したコーヒー園が、アメリカ連邦政府農務省によりハワイ島西地区の最優秀農園に選ばれる。
- 1999年 レユニオン島で絶滅したアラビカ種「ブルボンポワントウ」の発見に関わり、種の再生と同島の
コーヒー産業復活に携わる。また、マダガスカル島で絶滅危惧種マスカロコフェアの保全に成功。
- 2007年 「ブルボンポワントウ」を65年ぶりに復活させ、日本で販売。高品質と希少性および世界で一番高い
コーヒーとして話題となる。
世界で初めて自然の状態での低カフェインコーヒーを発表。
UCC退社。株式会社コーヒーハンターズ設立。代表取締役就任。
- 2008年 生産者と共に農園の中から真に優れたコーヒー豆だけを選別し販売するための母体として、
株式会社Mi Cafeto(ミ・カフェート)設立 代表取締役就任。

2 グランクリュ カフェを生み出す農園

サン・セバスティアン農園



生豆生産国	グアテマラ	セクション	コンセプション・ドウラスノ
生豆産地	アンティグア	オーナー	エストウワルド・ファジャ・カスティージョ
農園	サン・セバスティアン	海拔/品種	2,000m/アラビカ種ブルボン亜種

サン・セバスティアン農園のあるアンティグアは、スペイン語で「古い」という意味を持つ古都で、教会やコロニアル建築、石畳など、植民地時代の面影が残る市街地を3つの火山が取り囲む美しい街。コーヒー産地としても知られているこの地にスペインから移住してきたサルバドル・ファジャ・サントスが農園を開いたのは1890年のこと。以来、1世紀以上に渡ってファジャ族が農園を守っている。代々、一族の話し合いで代表を決めてきたが、後継者となるものは先代が引退する前に自ら農園に入り、十分な時間を費やして先代の経験と技術、そして信念を引き継いできた。(販売総量998kg)

【味・香りの特徴】

キャラメルのようなアロマ。柑橘系で少しはちみつを感じさせるフレーバー。力強くすっきりとした酸味、アフターテイストは甘味に変わる。

